リンクスの事業再生現場レポート 第115回

（株）リンクス
宇都宮市西一の沢町8-22　栃木県林業会館５F
TEL：028-634-5088
Mail：info@rincs.biz
URL：https://www.rincs.biz/

【ある廃業】

その会社は昨年の年末、すべての業務を終了し廃業しました。

高齢の社長は、経営権を譲ってでも、会社を続けたい意向でしたが、様々な状況を鑑みての苦渋の選択でした。

その会社、設立されたのは昭和の高度成長期が終わり、それでもその余韻が色濃く残る時代、菅原文太の「トラック野郎」が隆盛を極めた頃です。それまでトラック一台で建設資材を運んでいた社長は一念発起し、様々な人の支援を受け、数台のトラックを購入、土木資材の運搬会社をスタートさせ、それから50年の月日が流れています。

真面目で仕事熱心な社長、顧客の信頼も篤く、業績は安定し、少しずつ会社も大きくなり、従業員も増えていました。

しかし、今起こっているコロナ禍とその後の変化、特に「労働者」や「働くこと」の意識の変化には抗うことは出来なかったようです。

土木資材の運搬は決して「楽」な仕事ではありません。とはいえ、法に従い労働環境は整備され、「ホワイト」に近い労働条件です。

朝早い仕事（終わりは早い）で、埃っぽい時もありますが、「歩合賃金」のため、働き方次第で得られる収入が多くなる、というメリットもあります。社長が若い頃は「人の２倍働き、３倍の収入があった」そうです。

昨年夏、高齢化などが理由で数名の運転手の欠員があり、急遽募集をしましたが、一人として「応じる人」がなく、その後数カ月間様々な方法で採用を試みましたが、結果は同じでした。

運送業は「人手」が必要です。しかし、誰もその仕事を選ばなければ、会社を運営することは出来ません。全体の２割の人手不足が「廃業」の原因でした。

長い歴史も、充実した車両や設備も、整えた労働環境も、人がいなければ何の役にも立たないのです。

廃業を決意した社長の脳裏には、好景気と不景気、バブルの隆盛と終焉、失われた20年とデフレ、そしてコロナ、その都度起こったトラブルや経営危機が、昨日のことのように思い出されたそうです。

廃業の挨拶回りでは、仕事の依頼と、廃業を惜しむ声が多かったそうです。

地域経済の中で必要な仕事、しかし就業者がいないと、一体どうなるのでしょうか。地域経済へは、どのような影響が出るのでしょうか。仕事があっても就業者のいない世界を、人は誰も経験していません。

今は空前の「人手不足」で、業種を問わず、様々な求人が出ていますが、満足な採用が出来る会社は少ないようです。現場では、募集条件を良くしても、なかなか採用出来ない、という声をよく聞きます。

筆者は、現在の人手不足は、少子化だけが問題ではなく、「働くことへの意識変化」があるのでは、と思っています。

働くことは「自己実現」、苦しみや辛さも「経験値」、なんて「昭和的」考えを切り替え、令和に相応しい新たな「働くことの意義」を模索する時期なのでしょう。

〈著者プロフィール〉
代表取締役社長　佐藤　正人
昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。
昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。
在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。